

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 府民に信頼され、地域に根ざした、創造性豊かなものづくりができる社会人を育成する。
1. 知・徳・体・技のバランスのとれた人材の育成に努める。
 2. 生徒一人ひとりの学力を伸長させ、将来的な展望を持たせ自己実現できるように努める。
 3. 生徒一人ひとりを大切にし、人権感覚豊かなエンジニアの育成に努める。

2 中期的目標

- めざす学校像に向けて、以下の取り組みを行うとともに、絶えず振り返りを行い、ねらいどおりの結果が出ているかという計画・実践・評価・改善のPDCAを機能させて検証していく。概ね3年後を目途に以下のことに取り組み、※の目標を達成させる。

1 教員一人ひとりが、自分の持っている力を高めて発揮できる学校

- (1) 教員同士が高めあうという組織人としての視点を互いに持ち、モラルの向上を図り、授業力の向上に取り組む。
 - ア 授業アンケート及び相互の授業見学を通して、授業力の向上をめざす。
 - イ 各系や教科を中心に経験の少ない教員等の学習会や技術力向上の研修会を開催し、授業力の向上をめざす。
 - ウ 英語や数学などの4科目や実習での少人数展開授業を実施し、生徒の学力定着を保障していく。

※教職員向け学校教育自己診断における授業力関連の肯定的意見を80%以上とする。
- (2) 学習意欲の向上の取り組みを実施するとともに、「資格の藤工」を確立する。
 - ア 基礎学力を向上させ、就職、進学に備える。
 - イ 「ほめる 笑う 叱る」を教員に浸透させることで、生徒一人ひとりの学習意欲を高めさせ、学習意欲の向上を図る。
 - ウ 生徒の自己肯定感や自己有用感の向上のために、実社会において有用な資格の取得を奨励する。

※生徒向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的な意見を75%以上とする。

※授業や補習などで、資格取得に向けて各系が取り組み、資格取得の合格率80%以上とする。

2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと思える学校

- (1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して「生きる力」を育て、進路保障をしていく。
 - ア 教科「キャリアガイダンス」やホームルーム活動等を通して、入学時から、職業適性検査、外部人材及び卒業生による講演会や研修等を実施し、キャリア意識を高める。
 - イ 社会人基礎力を育成するために、規範意識の向上を図るとともに企業見学、インターンシップを通して実社会を体験する取り組みを行う。
 - ウ 応募前職場見学などを積極的に実施し、就職先企業とのミスマッチを防ぐ。
 - エ 全教員による面接練習、受験対策講習、小論文指導等を行い、進路支援体制を整える。
 - オ 部活動への入部を奨励し、学校行事を充実させて、生徒の自立心を育む。

※生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定的意見を85%以上とする。

※インターンシップの参加者50人以上とする。

※今年度の遅刻者総数から5%以上減少させる。

※教職員向け学校教育自己診断における進路指導関連の肯定的意見を80%以上とする。

※就職内定率100%を維持する。

※1次の就職試験合格率80%以上を維持する。

※生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動の肯定的意見を60%以上とする。
- (2) 安全で安心な学校作りを行う。
 - ア 担任団、各分掌、各教科との定期的な連絡会を開催する。
 - イ 教育相談委員会の充実を図り、生徒たちが相談しやすい環境作りに努める。
 - ウ 人権教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。

※教職員向け学校教育自己診断の生徒情報共有関連の肯定的意見を80%以上とする。

※生徒向け学校教育自己診断の教育相談体制の肯定的意見を70%以上とする。

※生徒向け学校教育自己診断の人権教育関連の肯定的意見を80%以上とする。

3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校

- (1) ホームページや学校説明会、中学校訪問等を通して積極的に情報発信を行い、工業教育に興味・関心の高い生徒の確保に努める。
 - ア 【学校を外に開く】ブログの更新を含め、ホームページの更新回数を増加する。
 - イ 【学校を外に開く】教員のみならず生徒も含めて広報活動を中心にした中学校訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する。
 - ウ 【学校を内に開く】体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらう取り組みを実施する。
 - エ 【学校を内に開く】「ご来校（お電話）いただきありがとうございました」の姿勢を維持する。

※ホームページの閲覧回数を累計10万回とする。

※新入生の出身中学への訪問も含め、生徒、教員による中学校訪問合計数を延べ100件以上とする。

※体験入学者数、学校説明会参加者数、中学校教員向け説明会の参加者を延べ400人以上とする。

※保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定率80%以上とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【1 学力向上】授業関連での生徒全体の肯定率は 61,7%である。3年生の肯定率は 58%で一番低く、2年生の肯定率は 65%で一番高くなっている。2年生になると、一定自分の学力の定着を実感できるのである。3年生は、専門科目に対する戸惑いがあり、より丁寧な指導が求められている。</p> <p>【2 進路実現】キャリア教育関連での生徒の肯定率は 81%である。さらに保護者の肯定率も 87%であり、概ね本校の進路指導を含めたキャリア教育は有効な取り組みであると考えられる。さらに、本年度新たに追加した「挨拶の励行」においての肯定率は教職員 69%、生徒 79%、保護者 73%であり、平素から生徒の挨拶ができていていると考えられる。</p> <p>【3 安全安心】人権教育関連での肯定率は教職員 53%、生徒 68%であり、他者を思いやり、命を慈しむ心の醸成は概ね達成できていると考えられるが、より肯定率を高めていくため、人権委員会の活性化をめざす。</p> <p>【4 広報】保護者対応での肯定率は教職員 78%、また「子どもを藤工に入学させて良かった」での保護者の肯定率は 92%であり、今後は、今まで以上に保護者に関心を持っていただくため、ホームページの充実などを行っていききたい。</p>	<p>第1回 7/14</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画は、目標に数値があり、具体的でわかりやすい、年々良くなってきていると思う。生徒たちはあいさつができるようになったが、文化祭でも挨拶をしてくれる生徒が多く、これは生徒に自覚ができてきた一つの表れだと思う。これからインターンシップに来る生徒たちが元気にあいさつできることを楽しみにしている。前回の課題であった基礎学力の向上についてはどうか。 ・今回の定員割れという事態を受けとめ、今後、工科高校の魅力づくりなどの取り組みを、ぜひ進めていただきたい。 <p>第2回 11/13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭当日であり、生徒たちの様子をご覧いただき、生徒たちが生き生き活動している様子を評価していただいた。 ・「資格取得や就職の状況等をPRすることは重要である」とのご意見をいただき、今年度学校案内パンフレットを刷新した。 <p>第3回 2/2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断において、教員向けに「楽しい学校づくりができたか」という項目を加えてはどうか。さまざまな取り組みがなされ、自己診断の数値でもよくできていると思われる。生徒や保護者からの評価は高いが、教員自身による自己評価は低い。教員もよくやっていると意識してもよいのではないか。 ・就職率が重要であるが、しっかりと結果に結びついている。 ・インターンシップに多く参加している。もっと周知し更に参加を促してはどうか。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 教員一人ひとりが、自分の持っている力を高めて発揮できる学校</p>	<p>(1) 教員同士が高めあうという組織人としての視点を互いに持ち、モラルの向上を図り、授業力の向上に取り組む ア 授業アンケート及び授業参観を通して授業力の向上をめざす。 イ 各系や教科を中心に経験の少ない教員等の学習会や技術力向上の研修会を開催し、授業力の向上をめざす。 ウ 英語や数学などの4科目や実習での少人数展開授業を実施し、生徒の学力定着を保障していく</p> <p>(2) 学習意欲の向上の取組みを実施するとともに、「資格の藤工」を確立する。 ア 基礎学力を向上させ、就職、進学に備える。 イ 「ほめる 笑う 叱る」を教員に浸透させることで、生徒一人ひとりの学習意欲を高めさせ、学習意欲の向上を図る。 ウ 生徒の自己肯定感や自己有用感の向上のために、実社会において有用な資格の取得を奨励する。</p>	<p>(1) ア・授業アンケート結果及び授業参観（教員相互も含む）に基づき、授業改善方策を検討する。 ・研究授業を実施し振り返りも行う。 イ・定期的な学習会等を開催する。 ウ・座学においては単元が終わるごとに、実習においてはショップの区切りごとに科目担当者同士で授業の進捗や深度などの情報交換を行い、生徒の学習定着度を共有する。</p> <p>(2) ア・新入生を中心にした基礎学力向上の取組み（教育産業の活用・HR・教科「キャリアガイダンス」）を実施する。 イ・生徒の学習活動を肯定的に評価するとともに、興味関心を引き出すためICT機器等を活用した教材や指導法を研究する。 ウ・学校経営推進費事業（3年目）による支援や外部機関との連携等を活用し、資格取得支援チームを中心に資格取得の取組みを推進していく。</p>	<p>(1) ア・教職員向け学校教育自己診断「授業力関連」肯定率 75%以上 イ・初任者研修等を毎週実施したか ・初任者を含め公開授業の有無 ウ・教職員向け学校教育自己診断「評価・改善」肯定率 65%以上</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断「普通教科の学力」肯定率 70%以上 ・新入生を中心にした基礎学力向上の取組みの実施したか イ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」肯定率 70%以上 ウ・資格取得の合格率を 70%以上 ・外部機関と連携したか</p>	<p>(1) ア・教職員向け学校教育自己診断結果における「授業力関連」肯定率 78%。次年度はより効果的な手法の確立をめざし、校内研修等を活用しながら授業内容の研究・改善に取り組むたい。(○) イ・初任者による公開授業を実施した。他の教員からの授業者に対する「振り返りシート」の提出は8割にとどまった。次年度は 100%の提出をめざすとともに、他校との連携についても検討したい。(△) ウ・教職員向け学校教育自己診断「評価・改善」肯定率 68%。次年度はさらにこの項目の肯定率が高まるよう改善につながる振り返り等を取り入れていきたい。(○)</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断「普通教科の学力」肯定率 60.5% (△) ・新入生を中心にした基礎学力向上の取組み実施。(○) イ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」肯定率 65.7%。なお、授業アンケート結果における授業満足度は 82%であった。また、ICTを活用した授業は1つの実習教科で実施できなかった。次年度はこれらの教科を含め、ICT活用についても学校全体で取り組むたい。(△) ウ・資格取得の合格率 51.5% (△) ・外部機関と連携した。(○)</p>

府立藤井寺工科高等学校

2 確かな進路実現の取組	<p>(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して「生きる力」を育て、進路保障をしていく。 ア 教科「キャリアガイダンス」やホームルーム活動等を通して、入学時から職業適性検査、外部人材及び卒業生による講演会や研修等を実施しキャリア意識を高める。 イ 社会人基礎力を育成するために規範意識の向上を図るとともに企業見学、インターンシップを通して実社会を体験する取組を行う。 ウ 応募前職場見学等を積極的に勧め、就職先企業とのミスマッチを防ぐ。 エ 全教員による面接練習、受験対策講習、小論文指導等を行い、進路支援体制を整える。 オ 部活動への入部を奨励し、学校行事を充実させて、生徒の自立心を育む。</p> <p>(2) 安全で安心な学校作りを行う。 ア 担任団、各分掌、各教科との定期的な連絡会を開催する。 イ 教育相談委員会の充実を図り、スクールカウンセラーとともに、生徒たちが相談しやすい環境作りに努める。 ウ 人権教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。</p>	<p>(1) ア・キャリア教育支援委員会を中心に各学年のキャリア教育を検討し、学年間の情報交換を行う。 ・外部人材等を活用した各種講演会を開催する。 ・キャリアカウンセラーを活用し、良き社会人としての意識を高めさせる。 イ・インターンシップの充実を図る。 ・遅刻者数を減らす。 ・挨拶をとおして社会性の育成する ウ・応募前職場見学の意義を理解させる。 エ・教員一人ひとりに、全員が進路指導担当であるという意識を醸成していき、全教員で面接指導等を実施していく。 オ・部活動加入率を増加させる。 ・学校行事の時期も含めて検討し、活性化を図る。</p> <p>(2) ア・各分掌は原則毎週1回連絡会を実施するとともに担任団や各教科も定期的に連絡会を実施し生徒情報を共有する。 イ・教育相談委員会はケース会議等を主宰し、スクールカウンセラーと連携して、個々の生徒の課題解決を図る。 ウ・人権教育推進委員会では教職員と生徒に対する人権教育計画を策定し、研修等を通して人権感覚の醸成を図る。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「キャリア教育関連」肯定率80%以上 ・外部人材や卒業生等による講演を10回以上実施 ・キャリアカウンセラーの活用回数。(平成27年度20回→平成28年度20回) イ・インターンシップ参加者数40人以上 ・遅刻者数前年度以下 ・生徒向け学校教育自己診断「挨拶」肯定率70%以上 ウ・応募前職場見学者数を就職希望者の80%以上 エ・教職員向け学校教育自己診断「進路指導関連」肯定率75%以上 ・保護者向け学校教育自己診断「進路指導関連」肯定率75%以上 オ・生徒活動部による部活動アンケートの肯定率70%以上 ・生徒向け学校教育自己診断「学校行事」肯定率55%以上</p> <p>(2) ア・連絡会を実施したか ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定率75%以上 イ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定率65%以上 ウ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定率75%以上 ・人権教育委員会主催による教職員研修を実施したか</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「キャリア教育関連」肯定率81%(昨年度より1ポイントアップ)、さらに保護者の肯定率も87%であり、概ね本校の進路指導を含めたキャリア教育は有効な取り組みであると考えられる。(◎) ・外部人材による講演回数は9回実施し、生徒の将来設計能力や意思決定能力等は向上したと考えられる。(△) ・キャリアカウンセラーの活用20回(○) イ・インターンシップ参加者数は44名であり、昨年度より8名増加した。(◎) ・遅刻者総数1651名(前年比3割増)(△) ・生徒向け学校教育自己診断「挨拶」肯定率79%(◎) ウ・応募前職場見学者は196名参加しており目標を大きく上回り、ミスマッチを一定防いでいるが、企業の協力も得て、今後参加者を増やしていきたい。(◎) エ・教職員向け学校教育自己診断「進路指導関連」肯定率85.7%(◎) ・保護者向け学校教育自己診断「進路指導関連」肯定率88.7%(◎) オ・生徒活動部による部活動アンケートの肯定率76%(◎) ・生徒向け学校教育自己診断「学校行事」肯定率58%(◎) (2) ア・初任者等を中心にOJTを踏まえながら実施した。(○) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定率87%(◎) イ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定率53.8%(△) ウ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定率68.2%(△) ・人権教育委員会主催による教職員研修を実施した。(○)</p>
3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校	<p>(1) ホームページや学校説明会、中学校訪問等を通して積極的に情報発信を行い、工業教育に興味・関心の高い生徒の確保に努める。 ア 【学校を外に開く】 ホームページの閲覧回数を増加させる。 イ 【学校を外に開く】 教員のみならず生徒も含めて広報活動を中心とした中学校訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する。 ウ 【学校を内に開く】 体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらう取り組みを実施する。 エ 【学校を内に開く】 「ご来校(お電話)いただきありがとうございます」の姿勢を維持する。</p>	<p>(1) ア・ブログを活用して、タイムリーな情報発信に努める。 イ・教員による中学校訪問を実施する。 ・生徒による出身中学校訪問を実施する。 ・中高連絡会を実施し、連携を強化する。 ・イベント参加を含めて、出前授業等を実施する。 ウ・学校説明会や体験入学を実施する。 ・中学校教員対象の説明会を実施する。 エ・保護者への電話連絡をはじめ積極的に保護者懇談や家庭訪問を実施する。</p>	<p>(1) ア・ホームページの閲覧回数を累計7万アクセス以上 イ・教職員と生徒による中学校訪問件数合計85件以上 ・イベント参加や出前授業等10回以上 ウ・学校説明会・体験入学の参加人数・中学校教員対象の説明会の参加人数合計延べ350名以上 エ・保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定率75%以上</p>	<p>(1) ア・累計7万2360アクセス。(◎) イ・教職員と生徒による中学校訪問件数合計90件(◎) ・イベント参加や出前授業11回(○) ウ・学校説明会・体験入学の参加人数・中学校教員対象の説明会の参加人数合計362名(◎) エ・保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定率81%(◎)</p>